

# 〔視点2〕 「ねらい」から「まとめ・振り返り」までの1単位時間のデザイン

## 1 1単位時間で完結できる導入・展開・終末の時間配分をする。

### ◆ 適切な時間配分

学習活動は、限られた時間内で、本時のねらいを達成するものです。評価規準に基づいて最も効果的な学習活動を選び、時間配分を工夫して組み立てることが重要です。

#### 【POINT】

- ・授業は、「まとめ」「振り返り」の具体的な生徒の姿から想定して構想されるものです。実際に授業を行う際も、50分間で全ての生徒を「概ね満足できる」学習状況にする観点から、時間配分を工夫します。

「思考力・判断力・表現力」の育成をねらいとした例		「知識・技能」の習得をねらいとした例	
導入 7分	学習課題 見通し	導入 7分	学習課題 見通し
展開 35分	個人で思考 ペア・集団で思考	展開 28分	個人で習得 ペア・集団で習得
	個人で思考		まとめ
終末 8分	まとめ 振り返り	終末 15分	個人で習熟 振り返り

## 2 本時のねらいに正対した学習活動を位置付け、評価規準との関連を図る。

### ◆ 本時のねらいに基づいた評価規準、学習活動の設定

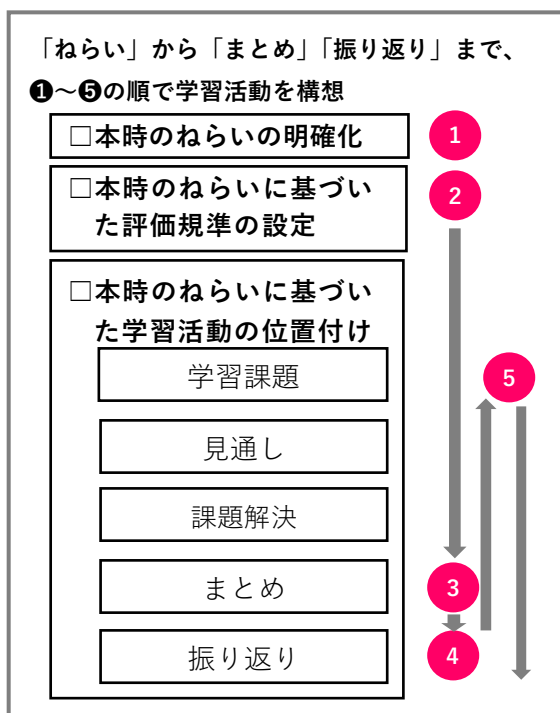
単元全体を通して、身に付けさせたい力を育成するために、単元の指導計画を基に、1単位時間のねらいを明確にし、具体的な生徒の姿で本時の評価規準を設定します。生徒の思考の流れや課題解決の筋道を明らかにして、ねらいに正対した学習活動を位置付けることが重要です。

#### 【POINT】

- ・本時の「まとめ」「振り返り」の生徒の姿を想定し、終末に至るまでの過程を考え、授業を構想します。(右図①→⑤)

#### 〔ねらいに正対した学習活動の例：社会科〕

- 知 識：事象について習得が必要な知識を項目ごとに表にまとめる学習活動
- 技 能：複数の資料を見比べ、共通点や相違点から事象の特徴を調べる学習活動
- 思考・判断・表現：事象の因果関係を考え、話し合う学習活動



## 3 教科書の構成を理解し、教材研究をする。

### ◆ ねらいを達成するための主体たる教材「教科書」

教科の主たる教材として活用する教科書は、教育課程の構成に応じた組織排列(配列)について研究され、編修されています。

教材研究では、評価規準を達成するための具体的な学習活動を想定して、教科書の構成や内容を理解することが重要です。

#### 【POINT】

- ・教科書には、生徒向けに、学習の進め方や教科の見方・考え方が掲載されています。生徒に確認させることにより、課題解決の見通しをもたせます。
- ・デジタル教材やQRコードが掲載されています。音声教材や映像資料を活用することにより、学習内容の理解を促進します。